

ふりこのきまりの学習での注意

危険防止のために

関連単元
8. ふりこのきまり

1 ブランコを使う場合

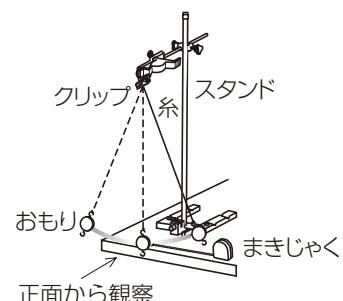
- ブランコの動きを観察させる位置を決める。
 - ⇒ 観察する位置がブランコの軌道に近いと、ブランコの台が児童に当たるおそれがあるので、安全に観察できる位置を指示しておく。
- 複数の児童が一度に1台のブランコに乗らないように注意する。
 - ⇒ 2人以上乗ってブランコをこぐと、落下事故などが起きやすい。

2 登り綱（ターザンロープ）を使う場合

- 摆らしても大丈夫かを点検する。
 - ⇒ 体育館に設置されている登り綱（ターザンロープ）は、登るためのロープである。揺らすためには作られていないので、揆らしても大丈夫かを点検しておく。
- ロープをレールに対して垂直方向に揆らさない。
 - ⇒ 設置されている登り綱は、カーテンのようにレールを滑らせて動くようになっているものが多い。このような場合、レールに対して垂直方向にロープを揆らせると、レールの幅が広がってはずれることがある。
- 登り綱の安全が確認されてから、児童に活動させる。
 - ⇒ 児童はロープを握る力が弱いので、決してロープの高いところにぶら下がらせない。
 - ⇒ 床にはマットを敷いて、落下したときにはけがをしないように配慮する。

3 実験用の振り子を使う場合

- 振り子の正面から動きを観察する。
 - ⇒ 振り子を調べるのによい観察位置は正面である。斜めの位置で、観察すると正確に測定できない。
- 振れ幅を大きくしすぎない。
 - ⇒ 振れ幅を大きくしすぎると正確に測定できない。また、他の児童がそばにいると、おもりが当たるおそれもある。
- おもりをつるす糸の種類に気をつける。
 - ⇒ たこ糸やもめん糸はよりがあるため、実験中によりがもどって、おもりが回転したり振れ方が変わったりする。
- 他の児童に当たると大変危険なので、振り子をふり回したり、投げたりしないように注意する。



ふりこのきまりの学習での注意

● 安全に正しく観察するために

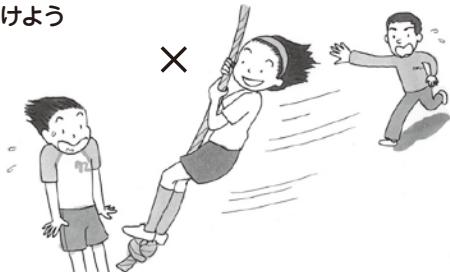
1 ブランコでふりこの動きを観察するときに気を付けよう

- ・ブランコに乗ってこぐのは1人だけにする。
⇒ あぶないので、2人以上乗ってこがない。
- ・動きを観察するときは、ブランコの通り道の横の少しはなれた位置から観察する。
⇒ ブランコの通り道に近いと、ブランコの通り道が少しずれただけで、ブランコの台が当たってあぶない。



2 ターザンロープでふりこの動きを観察するときに気を付けよう

- ・レールに対して垂直になる方向にロープをぶらない。
- ・ロープをよじ登って高い位置にぶらさがらない。
- ・かってにロープに登らない。
⇒ 先生の指示にしたがう。



3 実験用のふりこで観察するときに気を付けよう

- ・動きを観察するときは、ふりこの正面の位置に立つ。
- ・動きを観察するときは、ふりこのふれはばを大きくし過ぎない。
- ・ふざけて、ふりこをふり回したり、投げたりしない。

